

Title	京大上海センターニュースレター 第16号
Author(s)	
Citation	京大上海センターニュースレター (2004), 16
Issue Date	2004-08-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/26332">http://hdl.handle.net/2433/26332</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

---

---

# 京大上海センターニュースレター

第 16 号 2004 年 8 月 1 日

京都大学経済学研究科上海センター

---

---

## 目次

### ○ 第4回アジア太平洋学際会計研究学会に参加して

\*\*\*\*\*

#### 第4回アジア太平洋学際会計研究学会に参加して

アジア太平洋学際会計研究学会 (Asian Pacific Interdisciplinary Research on Accounting Conference: 略称 APIRA) の第4回大会は、2004年7月3日から5日までシンガポールのグランドハイアット・ホテルにおいて開催された。今回のシンガポール大会には、31カ国から250名あまりの参加者が集まり、日本からは9名の会計学者が参加した。筆者も理論・方法論部会での報告のため学会に参加した。上海センターの活動と直接関係しているわけではないが、寄稿依頼をいただいたので、簡単に APIRA シンガポール大会の紹介をさせていただく。

「アジア太平洋」という名称から、アジア太平洋地域の会計問題を専門的に検討している学会と勘違いされることがあるが、「アジア太平洋」は研究領域ではなく学会の開催地域を表している。APIRA は、1995年に第一回大会がオーストラリアのシドニーで開催され、1998年には大阪で第二回大会が、2001年にオーストラリアのアデレードで第三回大会が開催されています。第二回大阪大会の際には、筆者も大会準備委員の一人としてお手伝いさせていただきました。

このように3年ごとに大会が開かれているのは、APIRA が開催された翌年には、批判会計研究学会 (Critical Perspectives on Accounting Conference: 略称 CPA) の大会がアメリカで開催され、またその翌年には学際会計研究学会 (Interdisciplinary Perspectives on Accounting Conference: 略称 IPA) の大会がヨーロッパで開催されるという関係になっているからである。つまり、アジア太平洋とヨーロッパとアメリカの間の持ち回りで開催されているので、APIRA だけをみると3年ごとの開催になっている。

学会としての特徴は、アジア太平洋の後に続く「学際」的であるという点で、それはこの大会が *Accounting, Auditing and Accountability Journal* (略称 AAAJ) という学際会計研究を積極的に支援している学術専門誌との共催となっていることにもあらわれている。今年の大会では、環境問題関連テーマでの報告が多く行われ注目を集めていた。

シンガポール大会の運営は、シンガポール・マネジメント・ユニバーシティのスタッフが中心となって行われた。お国柄を反映して非常に秩序だった大会運営だったが、同時にサービス精神も豊かでレセプション・パーティでは学生たちの踊りのパフォーマンスなども披露され喝采を浴びていた。そのレセプション・パーティでは、シンガポール・マネジメント・ユニバーシティのロナルド・フランク学長が歓迎スピーチを行い、学会を盛り上

げた。今回シンガポール・マネジメント・ユニバーシティが **APIRA** をホストすることになった直接のきっかけは、シンガポール・マネジメント・ユニバーシティのスタッフが **AAAJ** のチーフエディターである **Lee Parker** 教授のもとで学んだことにある。国際学会に参加するたびに感じることだが、研究者のネットワークの重要な部分は内外を問わず師弟関係を通じて築きあげられている。京都大学経済学研究科が国際化をいっそう進めるためにも、海外の優秀な研究者の卵に京大で研究してもらう意義はきわめて大きいといえる。宿泊施設などの環境作りや、海外からの問い合わせに対するスピーディーな対応能力、そして何よりも国際交流の実質的な進展を妨げる時代錯誤的な諸規定の見直しを早急に行なう必要があると改めて感じた次第である。

(澤邊紀生)